

沼津夏まつり・狩野川花火大会は まち全体が連携したビッグイベント



戦後復興事業として始まった沼津夏まつり・狩野川花火大会はオール沼津で楽しむ一大イベントです。お神輿やしやぎりなどで盛り上げる市民の皆さん、市内の商工業者、そして行政など様々な団体や個人が連携した「実行委員会形式」で開催されています。

地区センターは地域コミュニティに よって運営されています



集いや催しをはじめ、様々な場面で地域憩いの場となっている地区センターは、市が建物や設備を整え、地域コミュニティが指定管理者となって運営しています。地域のことをよく知る人達が運営することによってサービスの向上などを図っています。

地域の公園を地域の人が入り手する 公園愛護は公民連携の好例です



「自分たちの」地域の公園の清掃、維持管理、花壇のお手入れなどを主体的に取り組む公園愛護会が市内に72団体あります。公共の場でありながら、身近な場所を自分たちの手で守っていきこうという取り組みはまさに公民連携の代表例と言えるでしょう。

ここで挙げているのはほんの一例ですが、まだまだあります、公民連携によるまちづくり。

長く続いている様々な取り組みもまた沼津のまちをつくらせてきた誇るべき公民連携です。



晴れ舞台である二十歳の集いは 中学校区ごとに開催

二十歳の集いは、各中学校区で開催します。市内全域17校区の、それぞれに趣向を凝らした演出が、旧友や恩師との感動的な再会を大いに盛り上げます。大切な門出を地域ぐるみでお祝いする、誇らしい取り組みです。



全国に先駆けて始められたごみの分別は 沼津の朝の自然な風景

ごみの分別収集「沼津方式」は、ごみの減量や資源化に繋がることから、多くの自治体が参考としています。市民の皆さん、自治会などたくさんの方の理解のもとにスタートし、今では「分別することが当たり前」になるほど浸透しています。



けっこうすごい!

数字でみる沼津市の公民連携によるまちづくり

リノベーションまちづくりの取り組みにより
生まれた事業の数

46事業

市内の空き物件や遊休不動産を活用し、新しくスタートした事業や、まちづくりを学ぶ「リノベーションスクール@沼津」をきっかけに誕生した事業が全部で46事業。商店街にオープンしたダンススクール、デザイン事務所、使われなくなった蔵に新たな価値を付与した宿泊施設など、実際の物件を活用したものからローカルメディアの運営なども含めて、多種多様な取り組みがまちに新たな風を吹かせています。



沼津市民間支援まちづくり
ファンド事業実施件数

141件

提案者は高校生からお年寄りまで
たくさんの人が提案しています

17歳~80歳代

民間が主体となった「まちづくり活動」や「まちづくりに資する施設整備等」に係る経費の一部を支援する制度である「沼津市民間支援まちづくりファンド事業」に採択され、実施された件数は令和元年度までの4年間で141件でした。

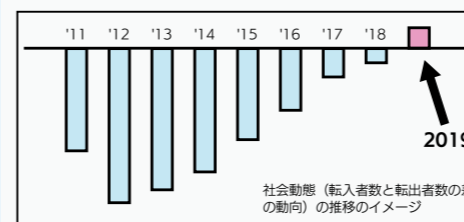
地域活性化の可能性を持ったソフト部門、施設整備を中心としたハード部門など提案内容は多岐に渡ります。

沼津のまちを先進事例として、視察に訪れた人の数

全国の自治体から、先進事例として本市の公民連携の取り組みを視察するために多くの人が来沼しています。

314人

※令和元年度実績(まちづくり政策課&緑地公園課調べ)



2019年(暦年)の社会動態が、37年ぶりに転入超過となりました。リノベーションによるまちなかの魅力向上の取り組み等が寄与したと考えています。

住民基本台帳人口による
社会動態が転入超過を達成

37年ぶり

ここに挙げている実績以外にも、長く続いているものや若い人たちによる「シビックプライド」が溢れる取り組みなど、公民連携によるまちづくりによって、たくさんの成果が現れています。



ぬまづまちピカ応援隊制度参加者

道路や緑地などの公共施設において、ぬまづまちピカ応援隊としてごみ拾いや花壇の手入れ・除草などの環境美化活動に取り組んでいる市民の皆さんや事業所、各種団体などがあります。

活動団体は38団体、延べ参加人数は7,117人を数えます。市では掃除用具の支給や看板を設置するなどして皆さんを応援しています。

延べ7,117人

沼津市男女共同参画推進事業所認定数

男女共同参画社会の実現をめざして、平成20年から「沼津市男女共同参画推進条例」を施行しました。

この条例のもと、市、市民、事業者、市民団体が協働して、男女共同参画の推進に取り組んでいます。

85事業所

※令和2年11月1日時点



「ご紹介したとおり、本市が進めている「公民連携によるまちづくり」は、様々な場面で着実にその成果や実績を積み重ねています。こうした成果や実績により生み出された本市の新しい価値は、市民の皆さんと行政が手を取り合い、連携してきた確かな足跡に他なりません。今回の特集の中に出てきた「主体性」「シビックプライド」「付加価値」という言葉は、公民連携によるまちづくりを進め、「暮らしやすいまち」であり続けるためのキーワードです。小さなことでもまちをよくしたいという市民の皆さんの想いや取り組みが、行政と連携することで、やがて大きな動きとなります。一人ではできないことも、誰かと手を取り合えば実現の可能性が大きくなるでしょう。はじめの一步を踏み出すときは、ぜひ市役所に相談して下さい。まちづくり、という「よくわからない」「自分には関係ない」と思っている方もありません。しかし、自分の暮らしを誰かに任せるとはならず、沼津のまちをより楽しく、より暮らしやすくしていくために、連携して「誇り高い、元気なまち沼津」をつくっていきましょう。」



まとめ